

在宅医療ケア部会 会議録 (令和元年度 第3回)

1. 日 時 令和元年10月1日(火) 18時～19時半

2. 場 所 飯塚市役所 2階 202

3. 出席者(順不同/敬称略)

【飯塚病院】大矢崇志、田中祥一朗、後藤裕美【穎田病院】金弘子

【嘉穂鞍手保健福祉環境事務所】大塚純子 岩井咲姫【嘉麻市役所健康課】藤井みはる

【飯塚市健幸スポーツ課保健センター係】瀬尾善忠、藤田奈緒【桂川町健康福祉課健康推進係】樋口智絵

【アップルハート訪問看護ステーション】上野美津江

【多機能型児童発達支援事業所ひばり】廣瀬竜也、福田千代、植野知子

【児童発達支援センターこどもの森・多機能型児童発達支援事業所森の子】許斐孝史

【機能強化事業ピース】毛利あすか【飯塚市】梶原あゆみ 伊佐恵【嘉麻市】福田津紀正

【桂川町】川野寛明【基幹相談支援センター】小出悦子、彦田純子

4. 概 要

1) 研修会企画について

①9月13日(金)研修会「摂食・嚥下・口腔ケアに関するレクチャー ～事例検討と予防を中心とした実技～」の振り返り

参加者は95名(今回は医師会・歯科医師会・薬剤師会に案内しており、そのため地域の医師の参加が増えた)。アンケート結果からも研修会内容が好評だったことがわかるが、特に、実技を交えたことや、講義の中での動画による事例紹介がわかりやすかったとの声が多かった。

②今後の研修会内容

年度内はあと二つの大研修会を予定。一つ目は来年1月10日(金)の筑豊地区小児科医会との合同研修として開催予定。テーマは胃ろうの機能に関する内容。二つ目は飯塚病院リハスタッフによる小児(重症児)の姿勢管理・ポジショニングなどを検討中。

③意見交換

- ・参加できなかった方にも研修内容がわかるとよいので、事後で共有できる資料(会議録や当日資料のダウンロードなど)を準備できないか。今後アイデアを出し合う。
- ・講義はやはり配布資料があると良い。また、講義ののち、講師に質問できる体制をとれた方がよい。

2) ツール開発について

現在(案)として作成しているサポートファイルを3人のご世帯に協力いただき、支援者と共に活用しているところ。現在取り組みの途中ではあるが、当事者や携わっている支援者からの意見を報告。

意見出し

- ・記入する項目の中で、過去の健診状況などは書き辛い(今回は試験活用であり、すでにサービス利用に繋がっているので過去のことを書き辛い、サービス導入開始段階からの活用なら過去の記載はない)。
- ・導入時から活用するならば、事業所独自のシートからわざわざ変更して活用するということはない、活用方法をシステム化すれば普及しやすいと思う。
- ・量が多く、作成に時間がかかりそう。

- ・過去の情報は将来、年金申請の時に必要な情報になるので書いておくのもよいと思う。
 - ・事業所の医療的ケア児3名に協力いただき作成してみた。過去の情報よりもこれからの状態の変化や成長が把握できる内容が必要だと思う。
 - ・「1日の流れ」では通所の時間帯は把握できていたが1日を通じたケア状況までは把握できていないことに気づいた。それを知ること、家族の夜間の負担などがわかる。夜間を含めた支援の全体を知ることが災害対策にもなる。エネーボ・充電バッテリーなどを災害に備えて多めに持参いただくようにするなど事業所の対応や意識にも変化が出た。
 - ・シートを活用することで、事業所としても気づきを得られる。事業所の災害対策が進んだ（カートリッジタイプの発電機を購入することとなった）。
 - ・Fシート：総合的なアセスメントについては、重症児の親御さんより、「できない」ばかりをチェックしなければならないので辛いとの声が聞かれている。保護者用・、評価者用で使い分けたほうが良いかなど、今後検討する。
 - ・ページ数やアルファベットを右下に明記してほしい。
 - ・久留米では差し替え用のファイルがある（発達障害向けとの事）。
 - ・書くメリットを強調すると書く意欲がわくかもしれない。保護者に説明できる案内を作成してはどうか。
 - ・災害時や緊急対応での必要性を訴えると、導入しやすいのではないかな。
- ★今後も引き続き試験活用を続け、皆さんからの意見をもとにツール検討会で内容の最終調整を行う。

3) 災害対策について

嘉麻市ケースでの取り組み（災害時対応チーム支援会議）の報告

- ・かかりつけの病院は受け入れてくれるが遠いので、災害発生時は近くの病院への避難が現実的。
- ・電気や食料の確保が出来ていないなど、課題に気づいた。
- ・家族も事業所も3日分のフードストックの習慣づけが望ましい。（自宅でも、通所先でも）。
- ・周辺施設（医療機関・企業・大学など）の発電機の有無を把握すると良い。
- ・実際の災害時には動けない事が多いので、平時に事前調整やシミュレーションを行うと良い。

課題について

- ① 「災害時個別避難計画書」を今後どう活用していくのか
- ② 災害時における医療機関への協力依頼をどの様に行えるのか

（意見）

⇒医療機関ごとに意思決定の方法が異なる。市との協定なども2市1町で方法は異なるので統一は困難。

⇒まずは飯塚市から始めて、飯塚医師会と協定を結べるとよいが。

⇒発信する担当部署はどこになるのか。（防災安全課なのか、障がい福祉課なのか）。

⇒地域には発電機があると言う事だが、その情報を分かりやすく把握できる仕組みがない。

⇒例として、倉敷中央病院は倉敷市と組んでデータ管理や避難先などの仕組みづくりを行っている。

⇒防災計画と合致すれば、オフィシャルに依頼しやすい。

★まずは防災安全課の課長さん方と、部会の代表者が意見交換をする。

4) その他

10月2日の地域包括ケアシステム5ブロック会議（済生会病院）は今回災害とテーマとしており、

在宅医療ケア部会での災害への取り組みについて紹介してほしいとの依頼有り、事務局彦田より報告を行う。